

第16回益城町人権フェスティバル

益城町から人権の熱と光を

1月26日(土)
町文化会館



▲力作が並ぶ作品展示コーナー



▲袴野小、最後の発表

開会行事では、住永町長が「誇り、幸せ、愛のあふれる町づくり」に一番大切なのは人権である。この会で多くの皆さんの人権に対する思いや願いを交流し合ってほしい」と挨拶を行いました。また、人権標語で特選となった4人の小中学生が表彰を受けました。

展示コーナーでは、町内から出品された人権標語や習字、絵画など、人権に対する思いを込めた作品に多くの人たちが見入っていました。

ステージ発表での、袴野小は、閉校を前にした自分たちの思いを劇にし、袴野を誇りに思う気持ちと地域の方や自然への感謝の気持ちを大きな声で堂々と発表しました。

益城中央小は、水俣病についての現地学習で、「病気が恐いのではなく、恐いののは人の心、差別である」ことを学び、ふるさと益城町への想いにつなげて発表しました。津森小は、水俣病と63年前の日奈久遭難事故とを重ねて、命の大切さについて考へ、「人権を大切にすることは、命を大切にすること」と力強く語りました。木山中は、修学旅行で学んだ、太平洋戦争の悲しみや苦しさを乗り越えて生活する沖縄の人々の想いを劇と沖縄伝統のエイサー踊りで表現し、大変感動的な発表でした。広安小は、長崎での平和学習を通して考へ、「命を大切にす

る心」「思いやる心」を大切に、「平和へのメッセージをたくさん送りたいものです。」と決意を述べました。益城中は、「自分たちの身の周りのいじめや差別に真剣に向き合おう。そして、傷つき苦しんでいる友だちを見て見ぬふりをせず、立ち上がり」と力強く訴えました。

飯野小は、ふるさとへの思いを語り、「身近な友だちや家族に自分の気持ちを伝えること、相手の気持ちや考えを大事にしていきたい」と発表しました。広安西小は、町で働く人々の思いを調べ、「夢をあきらめないで、誇りをもって仕事をしていることが分かり、感謝の気持ちが強くなった」と発表しました。このほかに、人権擁護委員の活動紹介、平田舞踊教室の日本舞踊発表もありました。

子どもたちの真剣な取り組みがよかった「改めて人権について考えることの重要性を認識させられました」などの感想が寄せられ、それぞれの発表に感動し、人権について再認識させられた一日となりました。

毎日の身近なところから一人一人を大切にする行動を起こしていきたいと思います。

町教育委員会

ふるさとの地名漫歩

歴史の変遷と地名

355

飯田山常楽寺⑮

⑧ 呪詛諸毒不害其身(呪詛諸毒不害其身絵図) 人々に呪われ毒薬を盛られても観音に祈れば、その難を逃れ、逆に呪った人が祟りを受けるべきである。

⑨ 虎狼蠅蛇疾走辺方(虎狼蠅蛇疾走辺方絵図) 猛く恐ろしい虎狼、毒蛇に会った時、観音に祈れば悪獣悪虫は遠く去り、身は安全でその難は消えてしまう。

⑩ 雲雷電雨應時消散(雲雷電雨應時消散絵図) 雨あられ降り注ぎ、かみなりが鳴り轟き、稲光がひかり、天地も震い裂けるほどでも観音の力を念ずれば、それらも消え失せ怖れは消えてなくなるであらう。

末尾に(常楽寺の)伝説に基づいて庶民に解かり易いように絵図と大和仮名で書いたが、不備の部分があつたら博覧の君子の方々が、どうか添削を乞う」とあり、寛永四歳丁卯五月日 桒沢秋潤日記 四

と署名があります

この観音信仰は武士層に強く絵縁起の中の①焼き討ち等



後木山氏が崇拝した観音堂
(大字寺迫字上田ガ原)

による火難②渡海時の暴風等による海難③白兵戦等での負傷、死亡の刀難④捕虜、ざん言等の足枷手枷逮捕の難⑤陰謀等による毒殺の難⑥野宮・行軍移動の中の悪天候の難等で、それは戦いに明け暮れる武士たちに日常起こる災難で、それから護る祈りであり信仰でありました。

たとえば市ノ後にある南北朝の前木山氏の木山松丸城跡の鬼門(丑寅、東北の方角)を守るのには観音堂で、「堂の下」の微少地名と当時の空井戸を残し、戦国期の後木山氏の迫城(現古城公園)の鬼門を守るのにも観音堂で、寺迫から神(上)田ガ原に登る坂道の途中にあります。

益城町文化財を訪ねる会
会長 松野國策